平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	卒業研究(Graduation Thesis)			授業コード	C109912
担当教員名	島岡　成治			科目ナンバリングコード	L41206
配当学年	4	開講期	前期		
必修・選択区分	必修	単位数	6		
履修上の注意または履修条件	卒業可能な単位を取得していることが必要です。また、原則として島岡研究室のゼミナールA、ゼミナールBを履修している必要があります。				
受講心得	大学4年間の集大成としての成果を求められますので、時間割の時間外にも積極的自主的に取り組む必要があります。				
教科書	なし				
参考文献及び指定図書	適宜示します。				
関連科目	全科目				

授業の目的	卒業研究は、大学4年間の集大成です。卒業研究では、自主的な取り組みはもちろんのことですが、能動的に問題意識をもち、発想し、それを発展させ、調査方法を発案し、調査し、調査結果を分析し、さらに分析結果から論理を構築し、成果としてまとめ上げ、第三者に対してわかりやすく発表するという、総合的な能力が問われます。
授業の概要	これまでに受講したすべての講義や実習を基礎とし、各自がもっとも興味を持つ分野を研究して、卒業論文または卒業設計を完成させます。 指導内容は研究対象によって異なりますが、一般的に、はじめに卒業研究の概要の説明を受け、各自の取り組むテーマを設定し、設定したテーマについて予備研究を行い、指導教員のもとで、調査、観測、実験、解析、設計などの研究を自主的に行います。データの整理、検討を行い、あるいは設計図書をまとめ、卒業論文または卒業設計を期限までに仕上げて提出し、審査を受けます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 : テーマ設定 卒業研究もしくは卒業設計のうち、どちらかを選択し、それぞれにおいてテーマを設定します。また、タイムスケジュールも設定します。	文献調査、実地調査、建築設計、プレゼンテーション資料の作成等
第 2 週 : プレゼンテーションと討論会 各自調査もしくは制作した内容をプレゼンテーションし討論します。その結果、テーマの内容を進化させ、次回のプレゼンテーションまでに取り組むべき課題を設定します。場合によってはテーマの設定そのものを見直します。	文献調査、実地調査、建築設計、プレゼンテーション資料の作成等
第 3 週 : プレゼンテーションと討論会 各自調査もしくは制作した内容をプレゼンテーションし討論します。その結果、テーマの内容を進化させ、次回のプレゼンテーションまでに取り組むべき課題を設定します。場合によってはテーマの設定そのものを見直します。	文献調査、実地調査、建築設計、プレゼンテーション資料の作成等
第 4 週 : プレゼンテーションと討論会 各自調査もしくは制作した内容をプレゼンテーションし討論します。その結果、テーマの内容を進化させ、次回のプレゼンテーションまでに取り組むべき課題を設定します。場合によってはテーマの設定そのものを見直します。	文献調査、実地調査、建築設計、プレゼンテーション資料の作成等
第 5 週 : プレゼンテーションと討論会 各自調査もしくは制作した内容をプレゼンテーションし討論します。その結果、テーマの内容を進化させ、次回のプレゼンテーションまでに取り組むべき課題を設定します。場合によってはテーマの設定そのものを見直します。	文献調査、実地調査、建築設計、プレゼンテーション資料の作成等
第 6 週 : プレゼンテーションと討論会 各自調査もしくは制作した内容をプレゼンテーションし討論します。その結果、テーマの内容を進化させ、次回のプレゼンテーションまでに取り組むべき課題を設定します。場合によってはテーマの設定そのものを見直します。	文献調査、実地調査、建築設計、プレゼンテーション資料の作成等
第 7 週 : プレゼンテーションと討論会 各自調査もしくは制作した内容をプレゼンテーションし討論します。その結果、テーマの内容を進化させ、次回のプレゼンテーションまでに取り組むべき課題を設定します。場合によってはテーマの設定そのものを見直します。	文献調査、実地調査、建築設計、プレゼンテーション資料の作成等

第 8 週 ： プレゼンテーションと討論会 各自調査もしくは制作した内容をプレゼンテーションし討論します。その結果、テーマの内容を進化させ、次回のプレゼンテーションまでに取り組むべき課題を設定します。場合によってはテーマの設定そのものを見直します。	文献調査、実地調査、建築設計、プレゼンテーション資料の作成等
第 9 週 ： プレゼンテーションと討論会 各自調査もしくは制作した内容をプレゼンテーションし討論します。その結果、テーマの内容を進化させ、次回のプレゼンテーションまでに取り組むべき課題を設定します。場合によってはテーマの設定そのものを見直します。	文献調査、実地調査、建築設計、プレゼンテーション資料の作成等
第10週 ： プレゼンテーションと討論会 各自調査もしくは制作した内容をプレゼンテーションし討論します。その結果、テーマの内容を進化させ、次回のプレゼンテーションまでに取り組むべき課題を設定します。場合によってはテーマの設定そのものを見直します。	文献調査、実地調査、建築設計、プレゼンテーション資料の作成等
第11週 ： プレゼンテーションと討論会 各自調査もしくは制作した内容をプレゼンテーションし討論します。その結果、テーマの内容を進化させ、次回のプレゼンテーションまでに取り組むべき課題を設定します。場合によってはテーマの設定そのものを見直します。	文献調査、実地調査、建築設計、プレゼンテーション資料の作成等
第12週 ： プレゼンテーションと討論会 各自調査もしくは制作した内容をプレゼンテーションし討論します。その結果、テーマの内容を進化させ、次回のプレゼンテーションまでに取り組むべき課題を設定します。場合によってはテーマの設定そのものを見直します。	文献調査、実地調査、建築設計、プレゼンテーション資料の作成等
第13週 ： プレゼンテーションと討論会 各自調査もしくは制作した内容をプレゼンテーションし討論します。その結果、テーマの内容を進化させ、次回のプレゼンテーションまでに取り組むべき課題を設定します。場合によってはテーマの設定そのものを見直します。	文献調査、実地調査、建築設計、プレゼンテーション資料の作成等
第 14 週 ～第25週： プレゼンテーションと討論会 各自調査もしくは制作した内容をプレゼンテーションし討論します。その結果、テーマの内容を進化させ、次回のプレゼンテーションまでに取り組むべき課題を設定します。卒業設計の場合はエスキスやスタディ模型などにより制作をすすめます。	文献調査、実地調査、建築設計、プレゼンテーション資料の作成等
第 26 週 ～第30週： プレゼンテーションと討論会 卒業論文、卒業設計を完成させます。また、卒業研究発表会に向けて概要および発表用資料をを作成します。	卒業論文、卒業設計の完成、プレゼンテーション資料の作成など
第31週 ： 卒業研究発表会 卒業研究発表会で発表します。	

授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①研究テーマに主体的に取り組むことができる。
【知識・理解】	②卒業研究のテーマに関する基本知識や専門的知識を身につけ、さらにテーマについて考え方を深めていくことができる。
【技能・表現・コミュニケーション】	③調査研究もしくは建築制作した内容を適切にプレゼンテーションする能力を身につける。 ④プレゼンテーションされた内容を理解し、専門的な立場から自分の意見を言うことができる。
【思考・判断・創造】	⑤卒業研究もしくは卒業設計において明らかになる問題に対し何らかの提案をすることができる。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。				
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		**30点**		

【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		**30点**	**10点**
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		**30点**	

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

〇配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	卒業研究もしくは卒業設計として論文もしくは作品を提出しなければなりません。その内容については、単位を修得するために達成すべき到達目標に対し、以下の達成水準を目安とします。 S：よく満たしている。 A：ほぼ満たしている。 B：一応満たしている。 C：一部分満たしている。
発表・その他（無形成果）	卒業研究発表において発表することが義務づけられています。その発表において特に優れた者は加点することがあります。